

紺碧沖繩



第 44 号

編集・発行

社会福祉法人

沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス : o.fukusi@muse.ocn.ne.jp ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



餅つき大会 (新年会)

重症心身障害児施設 沖縄療育園
児童指導員 宮城 貴子

平成十八年一月十八日に当園の訓練において餅つき大会を行いました。米から餅が出来るまでの過程を体験するとともに一年が健康であることを祈願しながら餅つき大会を始めました。

初めに今年の年男・年女の利用者の皆さんに縁起を担いで餅をついてもらいました。ほかほかで湯気の出ている餅米を二人で交互についてもらすと、周りから自然と「よいしょー」というかけ声が出ていました。利用者と共に職員や保護者も参加し餅をつきました。出来上がりが近くなるにしたがって、杵を握る手にも力が入っていくようで盛り上がりも増していきました。

みんなで一緒についた餅をきな粉やのり、砂糖醤油につけて食べました。自然とみんな笑顔になり、つきたての餅をおいしく食べている様子は、とても楽しそうでした。まだまだ寒い日が続く中、多くの利用者が参加する事ができ、寒さも吹き飛ばすような盛り上がりとなりました。

研 修 参 加 記 報 告

社会福祉施設長等
運営管理職員研修に参加して

婦人保護施設 うるま婦人寮
寮長 仲 里 光 義

去った平成十七年十一月二十九日から三十日に沖縄県総合福祉センターで「福祉サービスの基本理念と動向への理解を含め、管理運営職員に期待される役割行動・自職場の利用者サービスや組織活動のあり方を確認し、全所的組織活動の重点課題を明確にする」を目的に開催された研修会には県の福祉施設関係者三十六名が一同に集い、六グループの編成で二日間にわたって施設における事例等を提示し討議が行われた。

初日の講義は、「これからの福祉サービスと管理職員への期待」の講義の後、「管理職員の役割行動」で個人ワーク、グループ討議によって例題を設定し、各職場における事例等の発表後グループ毎の質疑形式による討議が行われた。

二日目は、「福祉サービスの実践」と題して演習が行われ利用者に対するサービス過程でチェックリストをもとにサービス計画と実践、連絡、連携、コミュニケーション等の項目の分析等があり今回の研修を踏まえ利用者のサービス等の把握につとめたい。

介護保険制度見直しと栄養ケア・マネジメントに関するセミナーに参加して

重症心身障害児施設 沖縄療育園
管理栄養士 大 城 圭 子

平成十七年九月二十四日(土)に群馬県高崎市で開催の「介護保険制度見直しと栄養ケア・マネジメントに関するセミナー」に参加しました。

国では、介護保険制度改革の主な内容として、予防重視型システムへの転換、サービス体系の確立、負担のあり方等の見直しに加えて、栄養改善に関するサービス、事業についても説明がなされておりました。

特に、高齢者には「食べる」とは一番の楽しみである。ところが、基本食事サービスの経費が全額自己負担となり、栄養管理は、保険給付の対象となるが、その業務は従来どおりではなく、管理栄養士による個人々人に対応した栄養ケア・マネジメントつまり、個人個人の身体、疾病や介護度の状況に対応した食事の提供、経口摂取への努力等が適切に行われるために、科学的評価のもとに提供されることになりました。

今回のセミナーを通して、更に、利用者の栄養ケアを効果的、効果的に実施していくために、医師の指示や看護師等の他職種と協力して、きめ細かな食事プランを作り、「食べる楽しみ」のお手伝いをしたいと思えます。



自主研修報告

看護師研修会 幹事
沖繩療育園 井 口 智

第一回看護職員自主研修会議(以下研修会議)が昨年の八月二十三日に事務局会議室で開催された。

第一回研修会議には各施設より七名の看護師が参加し幹事、補佐の選出、本年度の研修計画が話し合われた。

第二回研修会議は平成十七年十二月七日に都屋の里の会議室で玉城国哉氏(新垣病院医師)を講師として招聘し「てんかん」の研修テーマで実施した。講義後各施設で勤務する看護師よりてんかんの病態や処遇困難なケース等の質問が相継ぎ予定時間を超える有意義な研修会議となった。

第三回研修会議は平成十八年三月二日に沖繩療育園会議室で浦添消防署の救急隊員二名を講師として招聘し自動体外式除細動器(AED)について講義と実習を実施した。最近、空港や駅等の公共施設に設置されるようになったAEDのしくみと使用方法を学んだ。

専門職としての知識・技術を本研修会議でさらに高めて行きたい。



介護支援専門員自主研修のきっかけを作っていたいただきました事務局スタッフに感謝申し上げます。「ケアマネは何をする人か?」とりわけ介護保険制度で生まれた介護支援専門員の歴史は浅く、聞き慣れない名前だったと思います。平成十五年には経過措置としての猶予期間が終了し、介護支援専門員が介護施設にも必ず置となりました。その頃からでしょうか、ようやく介護支援専門員という名前も浸透していったような感じがいたします。

さて、介護支援専門員研修会議は、事業団でケアマネの資格を有した職員を対象にした部会です。今年度は、二回研修会をもつことができました。厚生園で実務を行なっているケアマネを中心にそれぞれのテーマ別に発表してもらい質疑応答形式で研修会をすすめました。又、外部(沖繩県庁)から講師を招いて講義も受けることもできました。研修会での内容は次の通りです。介護保険制度及び改正点のポイント 施設組織体制の中の介護支援専門員の役割 在宅サービス 介護保険制度と生活保護の関係(県生活保護担当の藤村班長)以上です。

介護支援専門員研修会で、その時その時の出逢いがあり、気づきがあり自分が成長できると思える環境の場になればと念じております。

地 域

北嶺学園における療育音楽活動

知的障害者更生施設 北嶺学園
生活支援員 新 城 綾 子



施設生活で心ウキウキするような時間を提供するところが出来るのは、療育音楽ならではの魅力だと強く感じています。

北嶺学園で療育音楽を導入・実施したのは平成八年からで、今年九年目になります。第二・四水曜と第三木曜の午前中に行い、ほとんどの利用者が参加しています。

ある利用者は、療育音楽の時間になると音楽に誘われ笑顔で楽しそうに楽器やシェーカーを振って参加します。又、療育音楽の時間の中でも盛り上がるのはリズムトレーニングです。職員が意識して盛り上げているというより、利用者の多くがワンカラワンカラ…(われ先に…)と前に歩み出て思い思いのリズムでシェーカーを振るのです。

去る十二月十日にうるま市石川会館にて「ゆいフェスティバル」が開催され、私は日頃の練習の成果を発表しました。「幸せなら手をたたこう」と「遊び庭」の二曲を紺のベストとベレー帽をかぶり、かつこうよく披露しました。皆の表情は真剣そのもので、緊張しながらも発表の場を楽しんでいるようにも思えました。

交 流

地域交流会に参加して

養護・特養老人ホーム 宮古厚生園
寮父 松 原 慶けい



生懸命体を動かして一ました。一時間と短い時間でしたが、歌や体操によって全員が一体となり、笑顔のあふれるとても楽しい交流会でした。

デイサービス利用者や養護利用者との交流会を行いました。内容は、おやつを楽しみながらカラオケ大会と参加者全員で歌に合わせて体操をするというプログラムでした。最初は、唄うことを恥ずかしがっていた皆さんはいざ始まってみると二曲唄ったり、飛び入り参加する方がいたり、とても楽しそうにされていました。おやつのケーキも「すごくおいしい」と、とても好評で最後の体操は皆さん起立し、歌に合わせて一

施 設 だ よ り

社 会 見 学

身体障害者療護施設 都屋の里



番組の中で利用者の有銘さんがリクエストした曲とコメントが紹介され、本人はあまりのうれしさに涙を浮かべて喜んでいました。

都屋の里では、利用者へ、行ってみたい場所の希望を募って、年四回社会見学を実施しています。

◎プロ野球キャンプ見学
平成十八年二月二日に、北谷町野球場へ、中日ドラゴンズのキャンプ見学に利用者五名が参加しました。

いつもテレビで見ている落合監督や奥出身の石嶺コーチを見て利用者も職員も大喜びしていました。

また、視覚障害のある利用者の方も選手たちのバッティングの音や活気あふれる練習の声を聞き、楽しんでいました。

◎FM沖縄ラジオ番組見学
平成十八年二月八日に、利用者四名が参加し、FM沖縄で「ハッピーアイランド」というラジオ番組の生放送を見学しました。番組の中で利用者

さくら 便り

養護・特養老人ホーム 名護厚生園
福祉現業員 玉 城 一 利



最後にあります。が、名護さくら祭りの頃、当地にお出かけになる機会がありましたら、一度、厚生園にも立ち寄ってみてください。

桜は、「あけみおの街」名護市の代名詞として県内のみならず全国的にも多くの人々から愛され親しまれています。原稿の依頼を受けた頃は桜の花も、満開の時を過ぎようとしている頃でした。今年の桜は、去年暮れの急激な冷え込みにより例年になく早い時期に満開となりました。当園の桜も名護城の桜に負けないうくらい美しく咲いていました。園内敷地周辺フェンス沿いは、数メートル間隔で桜の木が植樹されており、桜の時期になれば紅色の花に包みこまれた施設となり利用者にも潤いと安らぎを与えています。当園では、利用者、職員の協働作業により、園芸活動に積極的に取り組んでおり、花壇には四季をとおして色とりどりの花が咲いています。

毎日の水やりは利用者が自発的に行っており、余暇・趣味活動や日頃の生活の中で、可能な役割を担うことにより、その人らしさの実現、生き甲斐づくりが促進されるよう支援に努めています。

顧みて

離任あいさつ

最後の専務理事として

専務理事 照屋 寛

県から社会福祉事業団へ役員として派遣され、二年間事業団の生き残りをかけて職員といっしょに取り組んできた。

最終的には、県から土地・建物等を無償貸付することを内容とした協定書にもつき、事業団は再スタートすることになった。

今回、県に復職することになったが、一抹の淋しさと平成十八年度からの新生事業団の厳しい船出を考えると複雑な心境である。

役員、園長、施設で働く職員の皆さん！これまで事業団が培ってきた施設運営の実績とノウハウを十分生かし、ぜひ県民に愛され、選ばれる施設をめざしてがんばって欲しい。



沖繩療育園

園長 池間 意和

過ぎてみればアツと言つ間の九年間でした。

赴任当時はまだまだ若くて、那覇マラソンも出たしみんなとの遠足、車椅子マラソン、海水浴、月見会、千円会など、楽しい事はすべて参加しました。

他の職場では見られない毎日の情景がありました。口の周り中へとべとにした園生に、優しく食事介助している職員の姿、自分もそうありたいと思うこともありましたが、そうはなりませんでした。

去っていった園生たちも思い出します。新しい施設に、新しい生活を求めて行った桑江君、俊徳君、亡くなった人たち、永山洋子さんに、「洋子オハサン」と呼びかけたら、一週間口をき

いてもらえなかった。金城八重子さんには、テレサテンのCDを借りた。看護師さんも、美しい人が多かったなあ。

今、療育園を去る事は、心苦しい思いがします。このころ、私は自分が管理職向きでない事が分かってきました。余りにも顔が悪すぎるのです。セクハラもする。管理能力はない。経営能力はゼロです。これからの療育園には新しい園長が必要でしょう。

また、数年前から、もう一度、医師として現場で働きたいという思いがつのっていました。チャンスがあれば、心を入れかえて、新しい人生をもう一度、という思いがありました。

療育園の皆さん、かつて療育園で一緒だったみんな、ありがとう。父ちゃん、やんばるに帰る。

定年退職

沖繩療育園

看護課長 大城 恵子



昭和四十八年、草創期の沖繩療育園に就職以来、数ヶ所の施設で勤務させていただきました。利用者や職員と関わる中で、色々な事を学び、経験をさせていただきました。子育てをしながら夢中で歩んだ三十二年でもありました。

昭和二十年生まれの私は戦後の時代と共に、貧しい時代から高度成長の豊かな時代も味わいました。しかし、今予想もしなかつた厳しい時代の荒波に流されようとしています。優秀な人材が防波堤になっている限り、輝かしい未来は待っているものと信じています。

「一緒に定年しようネ」と言ってお下さった皆さん、貴方は不幸にも途中で辞められましたが、一人での定年は正直、寂しいです。

勸奨退職

沖繩療育園

育成課長 新城 清吉



具志川厚生園に配属から二十六年、諸先輩達から福祉のイロハからの指導、時には叱咤激励等受けながら、今日まで大過なく業務を務めることが出来、大変感謝しています。

最後の職場となりました沖繩療育園では、多種多様の業務の中、共感理解の下、利用者本位のケアに努めている姿に感銘を受けました。

事業団が大きな転換期の時期に退職するのは大変心苦しい気持ちですが、この転換期の時期にこそ今まで培った職員の能力(技能、知識)を発揮出来るチャンスだと思えます。今後の事業団の発展に向け、皆様方の今後のご活躍を心から期待しています。

沖繩療育園

主任保育士 東江 静子



昭和四十九年八月、第二病棟の開設に伴い沖繩療育園に採用され福祉施設の保育士として三十一年の歳月が流れました。当初は重症児・者の保育ってどうすればいいのかわかりませんと不安でいっぱいでした。療育園一筋に三十余年、振り返ってみますと走馬燈のように鮮明にいろいろなる事が思い出されます。

施設利用者との触れ合いの中で泣き笑い、時に励まされ今日までできました。利用者との関わ

りの中で命の尊さ、命の重さを感じる事が出来ました。利用者や職員からのたくさんの想いを胸に療育園を卒業し新たな人生を歩みたいと思います。

最後に、利用者・職員の皆様のご健康をお祈りします。

沖繩療育園

主任看護師 仲里 ミエ子



昭和五十一年、海洋博覧会が開催されている頃、沖繩療育園に看護師として採用され、二十九年の歳月がたちました。

その後、よみたん救護園と具志川厚生園に勤めました。無事勤めることができたのも、よき上司や同僚に恵まれ、暖かく支えられてきたお陰だと感謝申し上げます。

利用者のストレートに返ってくる反応、笑顔が返ってくるのが看護の魅力でした。福祉の仕事を通して、考え方、物の見方が変わり、色々なことを教えてもらいました。今後の事業団の発展と職員のご活躍をお祈り致します。

沖繩療育園

主任准看護師 渡名喜 順子



昭和四十七年三月、私は沖繩療育園に採用されました。四月の開園に向けて期待と不安を抱きながら、準備に追われていた事を思い出します。

その後、具志川厚生園に転勤、素晴らしい先輩方との出会いがありました。再び療育園に戻った時、かなり重症化している利用者が多く、看護の面で戸惑うこともありましたが、幸い、利用者の笑顔や良き同僚に恵まれ、今日という

日を迎える事が出来ました。皆様に感謝致します。最後に利用者・職員皆様の幸せと御健康をお祈りします。



沖繩療育園
看護助手 真栄城 米子

人々のお世話が出来る仕事を自分の天職と選び、よみたん救護園を皮切りにいしみね救護園、具志川厚生園、名護厚生園、沖繩療育園と各々の利用者や職員と、共に笑い喜び愛し時には涙し命の尊さ等を学びました。今、退職するに当たり思い出が走馬灯の様によぎります。沢山の思い出と、出会いに心から感謝申し上げます。大変お世話になり、ありがとうございました。



沖繩療育園
看護助手 新名 利枝

一握りのチャンス求めて、就職試験に挑み、採用決定の連絡を待つまでの時間が長かったように感じた事を今でも記憶しています。あれから二十三年間、大過なく働く事ができました。ソフト制の仕事のせいか、日一日が早く、三十代から勤めて今や五十代、仲間達も青年期から熟年期へと姿形も変わりました。顧みると仲間達と分かち合った仕事の悩み・労働・喜び、走馬灯のように、思い出がビューンとかけ廻りました。また、利用者との関わりは、感動したことも

多々あり、いろんな生き方、いろんな人と接する事ができ、貴重な財産になりました。働く事ができたというより、未熟な私が少しずつ成長しながら、みんなが働かせてくれたのだと思っております。

スペイン語には「角を曲がると、将来が変わる」という諺があります。「角を曲がれば、これまで想像しなかった出会いやチャンスが待っている」という意味です。これからの将来、不安も半分、期待も半分ですが、どちらにせよ、角を曲がろう、そして笑っていきましょう！みんな、幸せになるためにいきっているのだから。最後に、自分自身と事業団を去りゆく皆様へ、お疲れさまでした。そして、残る皆様には「ガンバレ」のメールと拍手を送ります。くれぐれもお体を大切に！



瀬水学園
保育士 波平 和美

三十年間、務めさせていただけ感謝申し上げます。この長い年月を振り返ると、園児・職員との関わりの中で学びごとの多い毎日でした。「気持ちに余裕のある」接し方を心がけ、自分なりに努力してきましたが、時間や日課に追われ管理するような態度を押し付けてきたような思いで、反省の気持ちがいっぱいです。一方では、三十年間に学んだことをボランティアとして活かすことは出来ないだろうかと思えるところがあります。すぐには実践できなくても、これからの人生を事業団と子どもたちに、目を向けていくことを信条にしていこうと思っております。福祉事業団の御発展と繁栄を心よりお祈り申し上げます。



北嶺学園
管理課長 国 吉 貴美子

うららかな春、退職を控え安堵感と淋しさが交錯し複雑な思いをしています。昭和四十九年十月一日、沖繩療育園第二病棟開設に伴い、事業団職員の一員となって私の社会人の第一歩がスタートしました。その後、北嶺学園、うるま婦人寮、よみたん救護園等で利用者処遇の一片に携わらせていただき、三十余年が経過しました。その間、自身の力量不足に思い悩むこともありましたが、利用者の笑顔や上司、仲間を支えられ、今日を迎えることができました。ことを心より感謝申し上げます。

平成十八年四月からの事業団の民営化、そして障害者施設においては障害者自立支援法施行が控えており何かと慌ただしい年になるうかとありますが、利用者には選ばれる事業団として今後も末永く存続し、発展することを心より願っています。最後になりましたが、事業団職員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

北嶺学園
生活支援員兼作業指導員

宮城 初美

二十九年と五月月をかえりみて、私の中では、職場であり家族のような温かい楽しい笑いのある場でした。諸先生方を始め、共に汗を流した先輩や同僚のみならず、生きることを全身で訴え、私をトギマギさせ、そして春光の眼差しでいつも迎えてくれる愛しい利用者の方々、私の気持ちは支えて下さった沢山の方々に、ありがとうございました。お世話になりました。」の言葉に尽きています。



よみたん救護園
副園長 山田 茂子

事業団に勤めて早三十一年余が経過、定職に就けたことに感謝し、頑張らねばと身を引き締めた出発の時を思い出します。情緒障害への理解を深めたいと熱望していたが、それを見極めつつ、ここまで来たのだろうかとの反省も残っています。自分自身の生き方に常に向き合った年月だったと思います。多くの方との出会いで成長できたことに感謝しています。新年度は、いよいよ事業団が独立立ちする年、今までに培ったノウハウと更なる研鑽で職員・利用者の方々が心から信頼し合える素晴らしい事業団になりますように心から応援してまいります。



よみたん救護園
看護師 長浜 ひとみ

昭和五十七年四月五日、沖繩療育園に就職。うるま婦人寮、再び沖繩療育園、名護厚生園、よみたん救護園と二十四年（一四日）、勤めて参りました。私は、仕事は楽しく、職員は仲良くすることに、職場の雰囲気も良く、利用者のよりよい処遇につながると思います。私は、各施設でいい仲間に出会い、楽しく仕事をすることが出来ました。この誌面をお借りしてお世話になった方々に、お礼を申し上げます。これからも、利用者や職員のご健康と平穩を祈っております。

退職者のことば

①

顧みて今

よみたん救護園

寮母 浦崎 恵子



退職する二十二年間に、体調をくずして迷惑をかけたこともありましたが、無事に退職が出来、ほっとしています。これからは、肩が凝らないように自由な気持ちで、第二の人生を送りたいと思います。最後に事業団の発展をお祈りします。

よみたん救護園

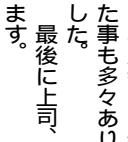
寮母 濱 元 房 枝



「福祉」「施設」についての知識もなく、ただ携わってみたいとの気持ちで就職し、現場職員として二十三年目にして退職することになりました。

よみたん救護園

寮母 川 満 順子



都屋の里を始め、具志川厚生園、いしみね救護園、よみたん救護園それぞれの施設で、利用者処遇の面で戸惑い、自信のなさを失敗もありました。利用者、同僚達のさりげない一言に励まされた事も多々あり微力ながら一生懸命がんばりました。最後に上司、同僚の皆様に深く感謝申し上げます。

よみたん救護園

寮母 川 満 順子



調理員として十四年、その後職種変更に伴い介護業務に六年間従事しました。その間、多くの方々の出逢いがあり、幾多の大切なこ

とを学ばせていただきました。

又、今日まで大過なく、職務を遂行出来たのも上司、同僚の方々に恵まれ温かく支えられてきたおかげだと感謝申し上げます。最後に皆様のご健康と、ご活躍を祈念致します。

いしみね救護園

管理課長 幸 喜 理知子



沖繩県社会福祉事業団に採用されて三十二年。月日が経つのは早いものです。事業団で幾つかの施設を体験させていただき、それぞれ違う利用者とかかわれたことは、私にとって有意義な経験となり、今後の生活をしていくうえの糧になると思います。長い間お世話になりました。みなさまの、今後のご活躍を応援しております。

うるま婦人寮

生活指導員 伊志嶺 聿子



早いもので私が事業団に就職して三十一年の歳月がたちました。今でもあの頃のことを鮮明に思い出されます。療育園、漲水学園、北嶺学園、そしてうるま婦人寮。どの施設も楽しく、思い出に残る職場でした。良き上司や同僚に恵まれ、多くの利用者との出逢いがあり、そして別れもありました。多くの方々の関わりの中でのいろいろな事を学び、経験したことは私の心の支えであり宝物です。皆さん、ほんとにありがたございました。これからの厳しい局面の中、事業団が発展し、皆様が活躍されることを心からお祈り致します。

名護厚生園

保護課長 池原 勝彦



すべてが芽吹く三月第一章を閉じ、雲雀が羽ばたく四月第二章が始まる。次章も大いに希望を抱いて踏み出そうと思っております。

昭和五十四年七月に採用され二十六年になりましたが前途厳しい中、次世代を担う若者に機会を与えるべく、民営化を機に退職をすることにしました。

在職中は諸先輩方、同僚、後輩と多くの職員指導、助言を得ながら、日々充実した毎日を送る事が出来ました。

事業団にとっては、民営化元年であり新たな歴史を刻むこととなりますが、諸氏におかれましては奮闘努力し沖繩一の民間施設として名をあげてほしいと願っています。それがOBとしての誇りであり拠り所とするところで、今後の発展のため協力は惜しまないつもりです。

名護厚生園

寮母 新垣 房子



昭和五十三年一月「都屋の里」の開設と同時に事業団に採用され、具志川厚生園、沖繩療育園、よみたん救護園、名護厚生園と二十八年間勤務させて頂きました。社会人として自立し、子育て、家庭運営と果たすべき役割の多い第二の人生を介護現場で働かせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。第三の人生は、二十代の頃、共に頑張った仲間達と月一回の集いもあり、ゆっくり、楽しく、健康に年が重ねていける様に演出したいです。事業団も新たな出発となりますが、皆、一丸となり力をあわせて頑張り、事業団が発展する様 お祈り致します。

具志川厚生園

保護課長 小嶺 美佐子

昭和四十九年十月に沖繩療育園に採用され、その後、北嶺学園、うるま婦人寮、具志川厚生園と三十一年余社会福祉事業団の一員として勤務することができたことを感謝申し上げたいと思います。それぞれの勤務先での良き上司や同僚、多くの利用者との出会いに励まされて、後ろを振り返る間もなくただがむしやらに走り続けて来たような気がします。たくさん思い出の数々、体験で学んだ事を退職後は社会福祉に携わった一人として、充実した人生を過ごしていく考えです。

厳しい風が社会福祉事業団に向いている状況ではありますが、「利用者から選ばれる事業団・施設」として発展するよう見守りたいと思っております。

具志川厚生園

管理栄養士 狩 俣 美智子

私は事業団設立の年、社会人一年生でうるま婦人寮開設時に採用され、事業団に育てられ、この節目の年に退職をさせて頂くことになりました。

未熟な私でしたが、利用者の大切な食に携わり「食事おいしかったよ!」の声に喜びを感じ、皆様の笑顔に支えられ三十二年余勤めることができました。各施設での素晴らしい出会い、貴重な体験、多くの想い出は私の生涯の宝物です。これまで温かく励まして下さいました利用者をはじめ、上司、先輩、同僚、関係各位に深く感謝し、皆様のご健康と新しい事業団の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

具志川厚生園

察父 兼 城 勇

昭和五十七年十二月六日に採用され早二十三年余、長かったようであつたという間に過ぎたように感じます。

今年、退職することになりました。これまで微力ながら頑張つて来れたのは、各職場での多くの良き仲間、利用者との出会いに恵まれたからだと思ひます。

「出会いの財産をありがとう。」

四月からは、事業団の本当の実力が問われます。これまで培つた「力」と「チームワーク」で益々の前進を祈念します。

八重山厚生園

介護支援専門員 伊 礼 ミネ子



石垣のスーパーで「沖繩療育園の方じゃないですか」と声を掛けられ、古いアルバムから一葉の写真を見つけ、今それを眺めています。そこには

弾けるような笑顔の園児と私達がいる。毎日歌い、踊り、年輩の職員のコモラスな物言いに笑いが満ちた楽しい日々だった。あれから早三十年、法根扱の異なる幾つもの施設勤務を経、介護保険施行に伴い指導員から介護支援専門員に職を変更。三年前に八重山厚生園に赴任した。赴任直後から職員や居宅支援事業所のケアマネージャーと連携をとり、短期入所を充実させることで八重山地区の地域福祉に少しは役立ったと自負している。

最後に新生事業団がこれまで培つた技量に磨きをかけ、福祉の達人として成熟した組織になるよう願っている。

以上の方々以外にも、紙幅の都合上、「ごあいさつをお願いできなかった勸奨・自己都合退職の方々へこれまでの入所者処遇ほか諸々の面で尽力・貢献してくださつた感謝の意を込めて氏名・所属等を掲載いたします。本当にご苦労様でした。ありがとうございました。退職される皆様のこれからの人生行路に幸多からんことを祈念しております。

勸奨退職（執筆以外）

【事務局】

事務局長 山里 将善

【沖繩療育園】

主 査 砂川 美枝

看護 師 島袋 義博

准看護 師 齊藤 伸江

神谷 定子

訓練指導員 銘苅 伸子

保育 士 砂川 翔子

療 育 員 渡久山直子

看護 助手 山城美佐子

比屋根安昂

福祉現業員 仲松 潔

仲宗根敏美

【あけぼの学園】

主 査 仲本 梅子

生活支援員 下地 勝盛

兼 作業指導員

【北嶺学園】

生活支援員 上原 健次

兼 作業指導員

【都屋の里】

准看護 師 安慶名美代子

療 護 員 山内 昌進

新垣しげ子

福祉現業員 仲里 衛

富本 幸子

【よみたん救護園】

主 査 平良 三芳

【いしみね救護園】

寮 母 上運天スエ子

【名護厚生園】

主 査 川門 勝則

寮 父 母 新垣 郁子

【具志川厚生園】

主 査 新川クニ子

介護支援専門員 金城 隆子

寮 母 吉元 末子

濱元 米子

【宮古厚生園】

主 査 奥平佳都子

介護支援専門員 儀保 恵子

福祉現業員 佐原 忍

【あけぼの学園】

副 園 長 奥原 清光

【北嶺学園】

園 長 金城 正一

【都屋の里】

療 護 員 松田 元

知花 信子

【よみたん救護園】

寮 父 母 武島 智

寮 父 母 金城 悟

【いしみね救護園】

【名護厚生園】

看護 師 小那覇悦子

寮 父 母 辺土名 勉

比嘉 星枝

【具志川厚生園】

寮 母 池原 礼子

県へ復職（執筆以外）

【沖繩療育園】

医 師 徳田 章哲

【沖繩療育園】

看護 師 平田 保一

准看護 師 仲松 恵子

看護 助手 新里 昌美

福祉現業員 鳥袋 隆一

真栄平昭子

榊山 彰

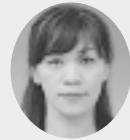
退職者のことば②



職員のかたらい広場～年男・年女

漲水学園

主任保育士 奥平 久乃



事業団の過渡期と、個人的年齢の過渡期が重なった。でも、生まれ年を迎えるというのは、いつもの年より何だか「私の年」になりそうな期待感がある。

これまで、三度配属が変わったが、その度に福祉の深さを感じてきた。だからこそ、いい仕事をするのも大切だが、いい人生と思える生き方がしたい。「チャレンジ」よりもセレクト。自分の思いを遂げられるようなことを、信じて選んで進みたい。

特養・養護老人ホーム 宮古厚生園
主任看護師 荷川取 悦子



事業団職員として採用になり十七年、四度目の生まれ歳。「福祉施設の看護」の難しさにとまどい、自問自答しながらも良きスタッフに恵まれ楽しく頑張っています。「事業団自主経営」という節目に「年女」であることは、ゼ口からのスタートという意味で、心機一転心身共に初心に帰り、利用者の立場に立つた看護また、サービスの提供をしていきたいと改めて考えています。

具志川厚生園

寮母 安里 宏子



月日が経つのは早いもので、社会福祉事業団に入り二度目の生まれ年を迎えました。年月を迎えたからと言っても、特に変わったことはなく、年が一つ増えただけ。これからも健康で、職員や利用者の皆さんと元気に楽しく過ごし、より良いサービスが出来ればと思います。

よみたん救護園
栄養士 森 也子



原稿の依頼があった時、何を書こうかと考えてしまいました。毎年元旦には一年の計は元旦にありと目標をたてますが、挫折の連続で半年すぎると来年こそはと思います。前回のトウシビートの頃の自分はどっだったのか？事業団に入り二年目の頃で、中堅職員になった今振り返ってみると無我夢中だったような気がします。福祉に携わる仕事をするとおもうてもみなかつたので毎日が新鮮でした。十三年もすぎるとその頃の気持ちを忘れていたような気がします。今回、原稿をかく機会があります。あらためて初心に戻り、前向きに進んでいきたいと思えます。また、人にやさしく自分に厳しい人にもなれたらなと。

WAMNETの巻・概要編

事務局 崎原 盛俊

今回は社会福祉分野において様々な情報を公開しているWAMNET(ワンネット)を紹介します。

①WAMNETとは？

独立行政法人医療福祉機構が平成十二年三月より運用を開始している福祉保健医療関連の情報を提供するための総合的な情報ネットワークシステムです。URLは <http://www.wamnet.go.jp>。インターネットを介し、福祉保健医療ならびに介護保険、障害者支援費制度等における関連情報が公開されています。

②どんな情報を入手できるの？(情報の種類)

WAMNETの一番利用されているのは何といっても「最新行政資料の入手」でしょう。WAMNETのトップページより「行政資料」ページへジャンプし、取得したい行政資料をPDFという形式のファイルとしてお手持ちのパソコンで閲覧・保存が可能です。また、行政資料のそれぞれが「介護保険」、「医療」、「保健」、「支援費・障害者福祉」等といった分類がなされており、キーワードや掲載日による検索も可能となっています。取得したい行政資料へのアクセスも容易となっています。

また、トップページから「介護」「医療」「障害者福祉」「児童福祉」といったページへジャンプすると各分野の事業所が、都道府県別・利用サービス別等の条件をつけて検索できたり、業務や申請に必要な標準的な各種様式集をワード・太郎等のワープロソフト形式のデータとして入手することもできます。

③活用できるか？(活用法)

以上、簡単にWAMNETの概要を情報取得・検索の視点から大まかに解説してみました。これらはどれも事務系向けのコンテンツ(内容)構成ですが、これ以外にも現場職員が活用できるようなコンテンツも用意されています。WAMNET Plus(ワンネットプラス)というウェブサイトでは、「週刊WAMデレックス」というメニューがあります。この中では介護予防に関する運動法や介護食のレシピがイラスト込みで掲載されていたり、人材育成に関するコラムや高齢者映画を紹介したコーナーなど現場で参考になる、あるいは職員同士、利用者との話題作りになりそうなものがありますので、「活用」してください。

事務局通信

★おめでとーいございます★

結婚

【具志川厚生園】
渡久地律子「寮母」
平成十七年六月八日入籍
(旧姓・田場)

二世誕生

【沖縄療育園】
宮里紀子「看護助手」
三男 倅太郎(こうたろう)
平成十七年六月二十六日

【具志川厚生園】
渡久地律子「寮母」
長女 笑瑠(えみる)
平成十七年九月二十六日

編集後記

『紺碧沖縄』第四十四号は、事業団が民営化に向けて準備に追われる慌ただしい中での作業となりました。事業団の歴史上大きな節目で、退職者が多く出たため、回顧録も全員のスペースがとれず、掲載できなかった退職者の皆さんには大変申し訳なくお詫びいたします。次年度は、新生事業団として、新鮮で夢の持てる情報が伝えられるよう、気持ちを取り組んでいきたいと思っております。